

東日本大震災・原子力災害アーカイブ  
拠点施設に係る検討について

中間報告（案）（一部）

平成27年6月

東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設有識者会議

## 目次

|     |  |   |
|-----|--|---|
| 1   | はじめに.....                              | 1 |
| 2   | 施設整備の基本理念.....                         | 2 |
| 3   | 施設の構成と機能.....                          | 3 |
| (1) | 情報発信・展示・交流(展示・交流エリア).....              | 3 |
| ア   | 記録、資料、研究成果のデジタル化による情報発信.....           | 3 |
| イ   | 機関誌などの発行による能動的情報発信.....                | 3 |
| ウ   | 大型3DスクリーンやAR(拡張現実)等の最新情報技術を活用した展示..... | 3 |
| エ   | 災害の事実をそのまま伝えるものの展示.....                | 4 |
| オ   | 語り部や証言映像による被災体験や被災者の思いの伝達.....         | 4 |
| カ   | 防災・減災についての教育、啓発.....                   | 4 |
| キ   | 被災者が次の世代に語り伝える語り部の活動等による世代間交流.....     | 4 |
| ク   | 教育旅行、修学旅行、研修旅行等の受入.....                | 4 |
| ケ   | 復興を担い支える人材の育成.....                     | 4 |
| コ   | 復興を推進するコーディネーターの育成.....                | 4 |
| サ   | 地域コミュニティの維持・再生.....                    | 4 |
| シ   | 地域の歴史、文化の継承.....                       | 4 |
| ス   | 企業・NPOとの連携の拠点.....                     | 4 |
| セ   | ふるさと創造学、ふたば未来学園との連携による教育.....          | 4 |
| (2) | 記録や資料の収集・保存(資料エリア).....                | 4 |
| (3) | 調査・研究(研究エリア).....                      | 5 |
| 4   | 整備スケジュール.....                          | 6 |
| 5   | 組織及び運営体制.....                          | 6 |
| 6   | 施設構成.....                              | 6 |
| 7   | 施設整備費.....                             | 6 |
| 8   | 年間運営費.....                             | 6 |

## 1 はじめに

東日本大震災及び原子力災害は、人類がこれまで経験したことがない未曾有の複合災害であり、災害の実態と復興への取組を正しく伝え、教訓として国を越え世代を超えて継承・共有していくことは、我が国の責務である。

記録と教訓を後世に伝えるアーカイブ拠点施設については、福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想の国際産学連携拠点の一つとして位置付けられ、同拠点に関する検討会において検討されてきたところであるが、その中間整理で、「福島県において、研究会を立ち上げ、情報発信拠点（アーカイブ拠点）の具体的な姿について検討し、国においても、福島県での検討結果の提案を受け、具体化を推進すること」とされた。

これを受け、福島県が当該拠点施設の具体的な機能、内容等について検討するために設置した有識者会議による検討の中間整理としてまとめたのが、この報告書である。

## 2 施設整備の基本理念

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、多くの死者や行方不明者を出し、産業・交通・生活基盤が壊滅的に破壊されるなど、東北の太平洋側を中心とした広範囲に甚大な被害をもたらした。

本県における被害をさらに深刻にしたのは、その後発生した東京電力福島第一原子力発電所事故による災害（以下「原子力災害」という。）である。放射能による汚染は広範囲に及び、多くの県民が県内外に避難し、ふるさとから遠く離れた地での生活を余儀なくされた。

さらに、原発から遠く離れた会津地方を含む県全域に風評被害が及び、県民生活だけでなく農林水産業をはじめとする多くの産業も大きな打撃を受けた。

この世界初の甚大な複合災害の記録や教訓を収集・保存・研究し、風化させず後世に継承・発信し続けることは、被災を経験した人々共通の思いであり、世界と共有することは、我が国の国際的な責務である。

また、福島にしかない複合災害で得られた貴重な経験や教訓を、国内外で今後発生する大災害に備える防災・減災の政策立案や人材育成の取組に生かす役割が求められる。

さらに、復興のためには、環境回復のための除染、事故を起こした原子力発電所の廃炉など、今後も長い年月と世界の英知を集めた取組が必要であるため、優秀な研究者や復興を担う人材の育成機能が求められ、また、文化や伝統芸能を伝え地域コミュニティ再生を図る交流の場を作ることで復興が加速することも期待されている。

原子力災害は、長期的な対応を余儀なくされることから、世代を超えて福島に心を寄せ現状を理解する方々や企業、団体との交流や連携を広げていくことは不可欠であるため、原爆を伝える広島や長崎同様、国内外から多くの方が訪れ福島の被災への理解を深め、被災地域の復興の拠点となる施設の整備は必須かつ急務である。

これらを踏まえ、次の理念の下、東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設を整備する必要がある。

- 世界初の複合災害と復興の記録や教訓の「未来への継承」、「世界との共有」
- 福島にしかない複合災害の経験や教訓を生かす「防災・減災」
- 福島に心を寄せる人々や団体と連携し、地域コミュニティや文化・伝統の再生、復興を担う人材の育成等による「復興の加速化への寄与」

### 3 施設の構成と機能

基本理念を達成するために、アーカイブ拠点施設の具体的な構成としては、(1) 情報発信・展示・交流 (展示・交流エリア)、(2) 記録や資料の収集・保存 (資料エリア)、(3) 調査・研究 (研究エリア) の3つがあり、それを具体化するための機能を例示すると次のようになる。

#### (1) 情報発信・展示・交流(展示・交流エリア)

世界に向けて福島記憶と記録、「現在」と「未来」をわかりやすく発信し、福島に心を寄せ現状を理解する人材や企業を、世代を超えて広げていく。廃炉の研究や取組の現状、原子力災害による避難の状況や県民の暮らしの実態、震災・津波災害の状況等を、疑似体験も含めて来館者が頭で理解し肌で感じられるようにし、広島や長崎のように、国内外から多くの人々が訪れる場としていく。さらに、地域コミュニティや文化・伝統の再生、復興を担う人材を育成するための取組をしていく。このためには情報発信・展示・教育・交流・人材育成の機能を必要とし、具体的には次のような取組をする。

##### ア 記録、資料、研究成果のデジタル化による情報発信

収集した災害の記録、資料、写真、映像等並びに研究成果をデジタル化し、インターネットで世界に発信する。

- ・東京電力福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組の推移を正確かつリアルタイムに現状を発信
- ・風評を払拭するため、共有・共感を形成しながら正確な理解を促す情報の発信
- ・関係施設の取組や連携について分かりやすく紹介
- ・原発被災市町村のそれぞれの復興のあゆみ、人々の日常生活の変化を県内外に発信 (原発事故と避難指示の推移等)

##### イ 機関誌などの発行による能動的情報発信

##### ウ 大型3DスクリーンやAR(拡張現実)等の最新情報技術を活用した展示

- ・地震、津波、原発事故による被害や避難の状況の実写映像、報道映像、再現したCG映像などをシアター、映像ディスプレイ、パネル等で展示
- ・原発事故による放射線の拡散・収束と避難指示等の区域の指定・解除の推移をAR技術により表現
- ・復興のあゆみをシアター、映像ディスプレイ、パネル等で展示
- ・海外、企業、NPO、ボランティアなどの支援活動の様子、震災前の地域の自然、歴史、伝統文化、産業、日常生活などを映像ディスプレイやパネルで展示

エ 災害の事実をそのまま伝えるものの展示

災害を象徴する震災遺構、遺物などを実物やジオラマ、3D映像により展示

オ 語り部や証言映像による被災体験や被災者の思いの伝達

カ 防災・減災についての教育、啓発

キ 被災者が次の世代に語り伝える語り部の活動等による世代間交流

ク 教育旅行、修学旅行、研修旅行等の受入

ケ 復興を担い支える人材の育成

コ 復興を推進するコーディネーターの育成

サ 地域コミュニティの維持・再生

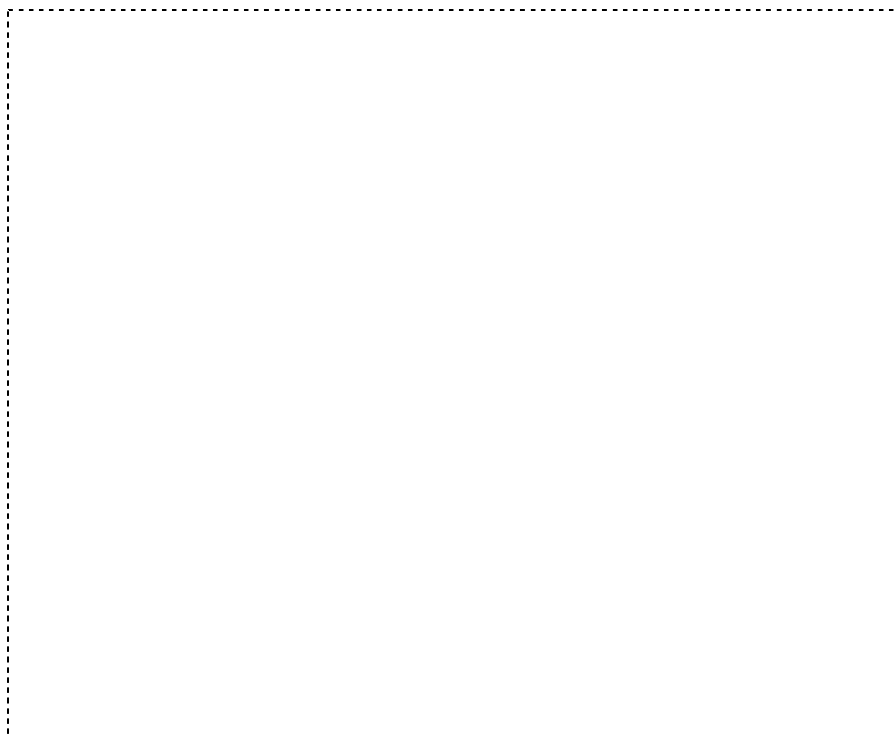
シ 地域の歴史、文化の継承

ス 企業・NPOとの連携の拠点

セ ふるさと創造学、ふたば未来学園との連携による教育

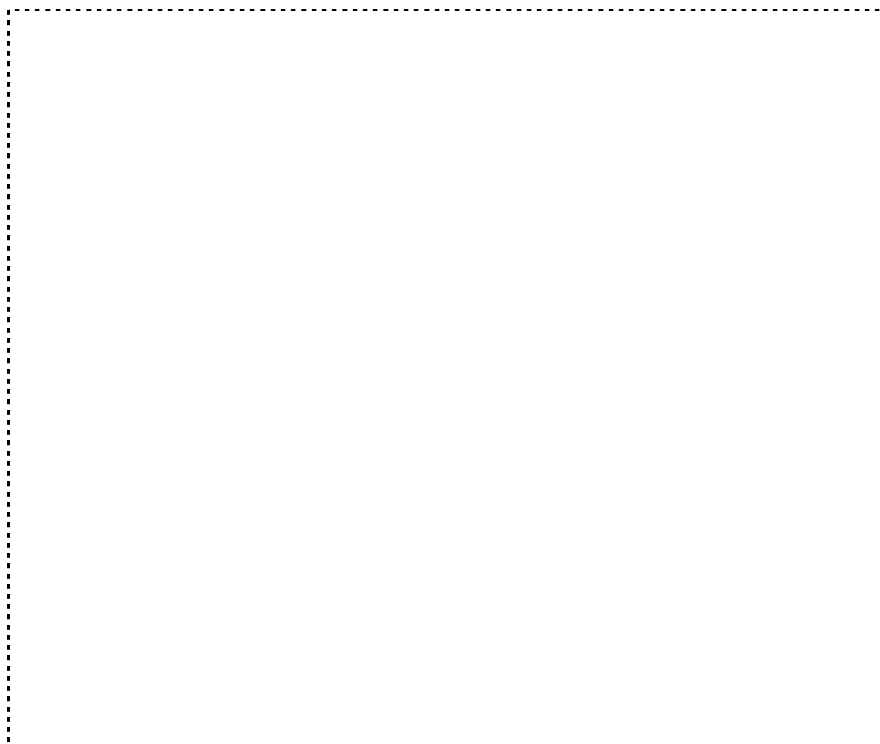
(2) 記録や資料の収集・保存(資料エリア)

世界初の甚大な複合災害による史上類を見ない遺構や遺物、文書・映像等を保存して散逸を抑制し、後世へ継承・保存する。他の様々な機関と連携し、情報の共有を図る。



### (3) 調査・研究(研究エリア)

全世界で福島にしかない収集資料に集う研究者に調査・研究する場を提供する。また、関連する研究会やシンポジウムを開催し、研究成果を国内外に発信・拡散するとともに、全世界の災害研究・教育にも寄与していく。研究の対象には、自然科学、社会科学、人文科学の各分野からアプローチする必要があり、展示・交流や収集・保存の理論的ベースとなる。



#### 4 整備スケジュール

#### 5 組織及び運営体制

- (1) 展示・交流エリア
- (2) 資料エリア
- (3) 研究エリア

#### 6 施設構成

- (1) 展示・交流エリア
- (2) 資料エリア
- (3) 研究エリア
- (4) その他

#### 7 施設整備費

#### 8 年間運営費